



Justice
&
Vigor

発信：弁護士法人

シティサンライズ法律事務所

弁護士 浦田 益之

弁護士 和田 恵

弁護士 磯谷 太一

Tel 058-265-1708

✉ info@urata-law.com

傷跡を残さない戦争などはない

1. 岐阜公園にできた「楽市楽座」が目当てなのか、五月の連休は人出でにぎわっていた。

それに引き換え、4月22日から始まった同公園内の加藤栄三・東一記念美術館での開館35周年「有由有縁」(土屋禮一、大石芳野、久野和洋三人展)(6月28日まで)には、意外と、足を運ぶ人が少なかった。

2. 大石芳野は、よく知られたドキュメンタリー写真家であり、アウシュヴィッツ、ベトナム、コンボ、カンボジア、ウクライナ、沖縄、広島・長崎などの現地取材を半世紀にわたって続けている。

戦禍に遭った地において、手足を失ったり、目が見えなくなったり、家族がいなくなったり、故郷を追われるなどして苦悩を抱え明日のことすら分からない女性や子ども、さらには高齢者等に寄り添っては「非戦」をカメラで追ってきた。

それだけではなく、「戦争は終わっても終わらない」(藤原書店刊)、「わたしの心のレンズ現場の記憶を紡ぐ」(集英社インターナショナル刊)ほか多数の著作を表し、ペンでも非戦を追っている。

この度、日本経済新聞に連載していたものを書き下ろしを加え、写真30余点を収録した「あすへの記憶」(同新聞社刊)を出版した。

3. 幼子の虚ろな目は、感情や生気が感じられない。そこには、強い精神的ストレスを受けてか、あるいは虚無感か絶望によって目の焦点が合っていない。

カメラを向けると銃かと恐れて逃げ出す子もいたとのこと。

「カンボジアで出逢った少女」の写真が展示されていたが、この子の場合は、その目は、私には激しい怒りに燃えているとしか思えなかった。

また、「ミャンマーのパゴダで祈る女性」は、苦しみから解放されるにはただ祈るしかない現実が見えた。

4. 「あすへの記憶」の中に、こんな話が紹介されている。

ニューギニアでのこと一食べられるとあって、好奇心の目で見られたとか。

聞けば当時、飢えた日本兵が地元の人や日本兵を食べているのを藪から見ていたので、日本人は人喰いかと思っていたといわれた。

本のカバーは、広い平原にひまわりが一面に咲いている写真が使われていた。

どうしてかと気になったが、ひまわりといえば、ウクライナ、ウクライナとくれば名作の映画

「ひまわり」を思い出す。

知ってのとおり、1970年公開のイタリア、フランス、ソビエト連邦、アメリカ合衆国合作の映画であり、ソフィア・ローレンらが出演した。

いわずと知れた反戦映画であり、戦争がいかに個人の人生や愛を容赦なく無残に引き裂くかを描

いている。

2022年2月24日、ロシアの武力侵攻を受けた今、ひまわりを描くのに、薄紫と黒の二色を使った枯れた花にする子がいる。

戦争が終わっても、失われたものやその傷跡は大きく、特に次の世代を担う子どもの心を痛め続けることになる。

著者は、あとがきで、幼稚園児に戦禍の子らの写真を見せようと、大勢の人が死ぬのにどうして戦争をするのか、それが悪いことと分かっている戦争するのは恥ずかしいと思わないのかといった声が返ってきた、と書き、園児にしても命の大切さを我が事のように受け止めているのを知ったと述懐していた。

園児の答えに勝る批判はない。

地球の寒冷化

1. 昨今は、やれ異常気象だとか、地球の温暖化、二季化などのことに話題を集めている。

産業革命以降、大気中に放出されるCO₂やメタン等の「温室効果ガス」の急増にその原因があるとされている。

つまりは、太陽からの熱が、大気中の温室効果ガスによって、宇宙へ放出されにくくなっているというのだ。

火力発電、化石燃料使用、森林伐採等の産業活動が主たる原因とされる。

人間にとって約14℃が活動しやすい温度だが、地球規模で気温が上がり、氷河の融解で海面の上昇、乾燥地の拡大など深刻な課題を抱えることになった。

そんな中で、米国トランプ大統領は、気候変動に対してこれを疑問視して、環境規制を緩和し、化石燃料の活用を推し進めようとしている。

パリ協定（2020年以降の地球温暖化対策を定めた国際協定）からの再離脱も明言した。

世界共通の長期目標に気温上昇を産業革命比で1.5℃～2℃に抑えることを掲げており、全参加国は5年ごとに削減目標を提出、更新する義務を負っている。

2. ところで、約1万2000年前には、地球が突然にして寒冷化したと教えられてきた。

例のヤンガードリアス期とかいっていた。

約6000年前になると、今度は大規模な海面上昇が起きた。

完新世海進のことだが、日本では「縄文海進」と呼ばれている。大垣市南部～尾西～稲沢～清州～名古屋市西部を結ぶラインまで海が迫っていた。

さて、1万2000年前の寒冷化がどうして始まったのか、いくら説明を聞いてもよく理解できなかった。

よく聞くのは隕石衝突説（衝突の衝撃で岩石が粉碎され膨大な量の塵、黒煙等が放出され、太陽光を遮断する）だ。海洋循環弱体説だってある。

最近では、火山大活動説が唱えられ有力視されている。100年以上にわたって大規模な火山噴火が集中したからだと言われている。

噴火は強い冷却効果をもたらすとかー。それによって、北半球の温度が急速に低下した可能性がある、といっている。

だが、素人にとっては、これで寒冷化の説明がすべてついたとは思わない。

大規模噴火がトリガーになって火山灰その他が成層圏に達して日傘効果が起こり太陽光が遮断されることは理解できても、まだ知られていない何かがある。

現代の地球温暖化は、太古のものとは違い、自然の摂理に対する反逆になっている。

次回案内 岐阜放送「ぎふチャン」

浦田益之の言われてみれば…10月28日(水)午後4時5分から